

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2015 年 1 月

「神格 - 聖霊」 「王は来られる」 「サタンの驚くべきわざ (心霊術)」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「神格-聖霊」

4

聖書の教え

朝のマナ

「王は来られる」

9

われらの主よ、きたりませ

現代の真理

「サタンの驚くべきわざ(心霊術)」

41

三重のメッセージ - 第三天使のメッセージ

力を得るための食事

「切り干し大根と油揚げのサラダ」

52

お話コーナー

「神様のための場所」

54

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2014 年 12 月 31 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;

HighRes on pages 8, 52

Printed in Japan

新年を正しく始めなさい

わたしは、あなたが自分の告白をよく秩序だてられた生活と信心深い会話で飾るようにと願っている。ああ、真剣でありなさい！働きにおいて、熱心で辛抱づよくありなさい。目を覚まして祈りなさい。謙遜と柔和を培いなさい。これは神の是認を受けることになる。イエスのうちに隠れなさい。自己愛と自尊心を犠牲にし、……神があなたに要求なさるどんな立場でも占めることができるように、豊かなクリスチャン経験をもって役に立つ者となりなさい。徹底的な心からの働きを求めなさい。表面的な働きは、裁きのテストに耐えない。世からの徹底的な変革を求めなさい。その墮落によって、あなたの手が染まず、あなたの心にしみがつかず、あなたの品性が汚されないようにしなさい。区別されたものでありなさい。神は呼んでおられる、「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受け入れよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる」。

聖潔を完成するための働きはわたしたちにかかっている。わたしたちの側でなしうるすべてのことをなしているのを神がご覧になるとき、このお方はわたしたちを助けて下さる。御使たちがわたしたちを助ける。そして、わたしたちはキリストが強めて下さることによって、強くなる。密室での祈りをなおざりにしてはならない。自分のために祈りなさい。恵みのうちに成長しなさい。前進しなさい。立ち止まってはならない、引き戻してはならない。勝利に向かって前進しなさい。主にあって勇気を出しなさい、わがいとしい息子よ、大いなる敵ともう少しの間戦いなさい。そうすれば解放がもたらされ、武具はわたしたちの親愛なる贖い主の足元におかれる。一つ一つの障害を通じて押し進みなさい。もし将来がいくらか曇って見えても、希望を持ち、信じ続けなさい。雲は消え、光が再び輝くようになる。神の讃美せよ、とわが心は言う。このお方があなたのために、あなたの父のために、そしてわたし自身のためにしてくださったことのゆえに神に賛美せよ。新年を正しく始めなさい。あなたの母、E.G.W

教会への証 1 巻 662, 663

1 章 神格 (4)

C. 聖霊

聖霊は、キリストと御父の代表であり、神格の第三位のお方であられます。このお方は、キリストを別にしては、神が人類に賜うすべての賜物の中で最大のものです。そしてこのお方を通して、キリストはご自分に従う者たちと共におられることを約束しておられます (ヨハネ 14:16-18, 23; マタイ 28:19, 20; ヨハネ第一 3:24; 4:12, 13; エペソ 3:16, 17; ローマ 8:9-11)。

イザヤ 6:8-10 と使徒行伝 28:25-27 の対比は、聖霊が神格の区別されたお方であることを示しています (イザヤ 48:16)。キリストは御父の前におけるわたしたちの仲保者であられる一方 (テモテ第一 2:5)、聖霊はわたしたちの心に働きかけることによってわたしたちのためにとりなしてくださいます (ローマ 8:26 (34 節参照))。

聖霊の最初の働きは、わたしたちに罪を自覚させ、キリストへ導くことです (ヨハネ 16:8)。イエスを自分の個人的な救い主として受け入れることにより、わたしたちは聖霊の感化と支配に明け渡すのです。このお方はキリストについて証し、悔い改めと改心 (新生もしくは再生)、そして聖化をもたらします。このお方は引き続きわたしたちをあらゆる真理 (従順) へと導き、わたしたちは神性にあずかる者となり (ペテロ第二 1:4)、キリストの思いを持ちます (ヨハネ 15:26; 16:8; 3:5-8; テトス 3:5; コリント第一 6:11; コリント第二 3:18; ローマ 8:1, 2, 9, 14, 16; テサロニケ第二 2:13; ガラテヤ 5:16, 25; ヨハネ 16:13; コリント第一 2:10-16)。

人が聖霊の賜物を受けることができる前に、その人は自分の生活において聖霊の実を結ばなければなりません (ガラテヤ 5:22-25; コリント第一 12:7-11)。

聖霊の賜物は、わたしたちの復活の保証 (誓約) です。わたしたちと共にある神の御霊のご臨在は、永遠の命の始まりです (ローマ 8:9-11 (cf. ヨハネ 11:25, 26; ヨハネ第一 4:13; エペソ 1:13, 14))。

個性

聖霊はしばしば御父や御子から出た力—人間のうちに、また人間を通して働く力—として言及されています（ミカ 3:8; ルカ 1:35; 4:14; 24:49; 使徒行伝 1:8; コリント第一 2:4）。

しかしながら、同時に、聖書は聖霊を、区別された個性を持つお方として言及しています。例えば：

1. 御父は永遠であり、御子は永遠であり、聖霊は永遠です（イザヤ 40:3（ヘブル cf. マタイ 3:3）；イザヤ 6:8-11（ヘブル cf. 使徒行伝 28:25-27; ヘブル 9:14; 出エジプト記 17:7））。
2. このお方は慰め主であられます（ヨハネ 14:26; 16:7）。
3. このお方は聞き、語り、わたしたちを導き、わたしたちに将来のできごとを明らかにされます（ヨハネ 16:13; ルカ 2:26）。
4. このお方はわたしたちに将来の試練や苦難を警告されます（使徒行伝 20:23; 21:11）。
5. このお方はわたしたちにあらゆることを教え、キリストの言葉をわたしたちに思い出させてくださいます（ヨハネ 14:26）。
6. このお方はわたしたちに禁止とご命令をもって臨まれます（使徒行伝 16:6; 13:2）。
7. このお方は預言者たちを通して、神の民にメッセージをお伝えになります（ペテロ第二 1:21）。
8. このお方は思いを（ローマ 8:27）、意志を（コリント第一 12:7-11）、そして愛する能力を（ローマ 15:30）もっておられます。このお方は侮辱され、悲しまれ（エペソ 4:30）、誘惑され（使徒行伝 5:9）、欺かれます（使徒行伝 5:3）。
9. このお方はすべてのことを「神のみ思いに隠された秘密」までも探られます（コリント第一 2:10, 11）。
10. キリストが御父に栄光を帰したように、聖霊はキリストに栄光を帰します（ヨハネ 16:14; 17:1）。
11. 聖霊はわたしたちのためにとりなしをしてく下さいます（ローマ 8:26）。

12. このお方はご自身を個人として、「わたし」や「わたしに」の人称をお使いになります (使徒行伝 13:2)。

「わたしたちは神に人格があるのとまったく同じように人格をもっておられる聖霊が、これらの地を歩んでおられることを自覚する必要がある (アヴォンデール学校での生徒たちへの講和より)」(伝道 616)

「〔聖霊〕は、キリストを表すが、なお、個別の人格をもっておられる。」(原稿リ-ス 20 卷 324)

「聖霊は自由に働いている独立した存在であられる。」(レビュー・アクト・ヘラルド 1896 年 5 月 5 日)

聖霊は神の全知と全能を共有しています。

「〔キリストは〕、……聖霊の無限の力で武装した真理が、悪との戦いに勝利〔す〕……る日の来ることをごぞんじであった。」(患難から栄光へ上巻 13)

「みたまは人を生れかわらせる働きをするものとして与えられるのであって、これがなければ、キリストの犠牲は何の役にもたなかったであろう。悪の力は幾世紀にわたって強められ、人々がこのサタンのとおりこととして屈服していることは驚くばかりであった。罪に抵抗してこれに打ち勝つ唯一の道は、制限された力ではなく天来の満ち足りた力をもってこられる第三位の神、聖霊の偉大な働きを通してである。世のあがない主によって達成されたことに効果を与えるのはみたまである。心が清くされるのはみたまによってである。」(各時代の希望下巻 156, 157)

「わたしたちの聖化の働きは、御父と御子と聖霊の働きである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 卷 908)

「御父、御子、聖霊、すなわち無限にして全知の権威者たちは、真に神との契約関係に入る人々をお受け入れになる。この方々は一つ一つのバプテスマにご臨在なされ、世を捨て、魂の宮にキリストを受け入れた候補者たちをお受け入れになる。これらの候補者たちは神の家族に入ったのであり、彼らの名は小羊の命の書に刻まれる。」(同上 6 卷 1075)

「聖霊はすべての誠実な祈りをつづられる。わたしはわたしのすべてのとりなしにおいて、聖霊がわたしのためにとりなし、またすべての聖徒のためにとりなすことを知ることを学んだ。しかし、このお方のとりなしは神の御旨に従ったもので

ある。決してこのお方のみ旨に逆らうものではない。『御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる』。そして御霊は神であられるので、神の思いを知っておられる。であるから、病んでいる人のため、あるいはその他困窮している人々のためのわたしたちの一つ一つの祈りにおいて、神の御旨を考えるべきなのである。『人間の思いは、その内にある人間の霊以外に、だれが知っていようか。それと同じように神の思いも、神の御霊以外には、知るものはない。』（コリント第一 2:11）。もしわたしたちが神から教えられたのであれば、わたしたちは明らかにされた神のみ旨に調和して祈り、わたしたちの知らない神の御旨に服するのである。わたしたちは神の御旨に従って嘆願をなし、尊いみ言葉に頼り、キリストはご自身を、弟子たちのために与えてくださったばかりでなく、彼らに与えてくださったことを信じるのである。『彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ。」』と記録は述べている（ヨハネ 20:22）。」（サインズ・オブ・タイムズ 1892 年 10 月 3 日）

聖霊の性質

ここに、わたしたちは一モーセが荒野でしたように一自分のくつを脱がなければならぬ主題に入る。主はわたしたちにご自分の僕によって、「聖霊とは何であるか、その正確な定義づけをする必要はない。み霊は助け主『父のみもとから来る真理の御霊』であるとキリストは言っておられる。聖霊については、人々をあらゆる真理に導く働きにおいて『それは自分から語るのではな』いとはつきり述べられている（ヨハネ 15:26; 16:13）。

聖霊の性質は神秘である。人間はそれについて説明することができない。なぜなら、主がそれを彼らに明らかにされていないからである。空想的な考えを持った人々は聖霊について書かれた聖句を集めて、人間的な解釈をつくり上げるかもしれないが、そのような見解を受け入れたところで教会を強化することにはならない。余りに深いので人間には理解できないこのような神秘については、沈黙が金である。」（患難から栄光へ上巻 47, 48）

聖霊はしばしば御父や御子から出た力—人間のうちに、また人間を通して働く力—として言及されています（ミカ 3:8; ルカ 1:35; 4:14; 24:49; 使徒行伝 1:8; コリント第一 2:4）。

聖霊の性質はわたしたちにとって神秘のまま残されています。わたしたちは申

命記 29:29 にある説明に注意を払うべきです。「隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し、われわれにこの律法のすべての言葉を行わせるのである」。

役割

「みたまによって、救い主はだれにでも近づかれるのであった。この意味において、主は、天にのぼられなかったとした場合よりも一層近く彼らのそばにおられるのであった。」(各時代の希望下巻 153)

「わたしたちの仲保者キリストと聖霊は、絶えず人間のためにとりなしをしておられるが、聖霊は、世の初めから流されたご自分の血を提示しておられるキリストがなさるように、わたしたちのために嘆願なさるのではない。御霊はわたしたちの心に働きかけ、祈りと悔悟、賛美と感謝を引き出すのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1077)

「人が、不法である罪を捨てるときはいつでも、その人の生涯は律法との調和、完全な従順へと入れられる。これが聖霊の働きである。」(教会への証 6 巻 92)

「もし人々が作りかえられることを望むならば、全人格のきよめがなし遂げられるであろう。み霊は神に関する事柄を取り、それを魂に刻みつける。み霊の力によっていのちの道は明らかにされ、そこではだれも過ちをおかす必要がない。」(患難から栄光へ上巻 50)

復活における力

「キリストは、われわれがキリストと一つ精神になるために、われわれと一つ肉体になられた。われわれが墓から出てくるのは、この結合によるのである。すなわちキリストの力のあらわれとしてだけでなく、信仰によってキリストのいのちがわれわれのものとなったからである。キリストの真の品性を見、キリストを心に受け入れる者は、永遠のいのちを持つ。キリストがわれわれのうちに住まわれるのは、みたまを通してであり、神のみたまが信仰によって心に受け入れられるときに、それは永遠のいのちの始まりである。」(各時代の希望中巻 135, 136) (ローマ 8:11 参照)

われらの主よ、きたりませ

Maranatha



1月「王は来られる」

イエスの初臨

「時の満ちるに及んで、神は御子を……おつかわしになった。それは律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。」（ガラテヤ 4:4, 5）

救い主の来臨はエデンで予告された。アダムとエバが初めてこの約束をきいたとき、彼らはそれがすぐに成就されるものと期待した。彼らは最初に生れたむすこをよろこんで歓迎し、その子が救い主であるようにと望んだ。しかし約束の成就は遅れた。この約束を最初に受けた人々はその実現をみないで死んだ。エノクの時代から、この約束は父祖たちと預言者たちを通してくりかえされ、救い主来臨の望みを生かしつづけたが、それでも救い主はおいでにならなかった。ダニエルの預言にメシヤ来臨の時期が示されたが、だれもがそのことばを正しく解釈したわけではなかった。一世紀また一世紀と過ぎて行き、預言者たちの声はやんだ。圧制者の手はイスラエルに重く、多くの者は「日は延び、すべての幻はむなしくなった」といまにも叫ぶばかりであった（エゼキエル書 12:22）。

だが定められた広大な軌道にある星のように、神の目的は急ぐことも遅れることもない。大いなる暗黒とけむるかまどの象徴を通して、神はアブラハムに、イスラエルがエジプトで奴隷生活を送ることを示し、その滞在期間は四百年であると宣言された。「その後かれらは多くの財産を携えて出てくるでしょう」と神は言われた（創世記 15:14）。このことばに対して、パロが誇りとする帝国は、全力をあげて戦ったがむだだった。神の約束に定められていた「その日に、主の全軍はエジプトの国を出た」（出エジプト記 12:41）。同じように、天の会議では、キリスト来臨の時が決定されていた。時という大時計がその時間をさし示すと、イエスはベツレヘムにお生れになった。

「時の満ちるに及んで、神はみ子を……おつかわしになった」（ガラテヤ 4: 4）。摂理の神は、この世界に救い主来臨の機が熟するまで、国々の動きと、人間の衝動や影響力の流れとをみちびいておられた。……（各時代の希望上巻 21, 22）

その時イエスが、人間のうちに創造主のみかたちを回復するためにおいになったのである。罪のために墮落した品性を新しく形づくることができるのはキリストよりほかにない。主は人間の意思を支配していた悪霊を追い出すためにおいになった。主はわれわれを塵（ちり）の中から起し、けがれた品性をご自分のきよい品性に型どってつくり直し、ご自身の栄光をもってそれを美しいものとするためにおいになった。（同上 28）

ベツレヘムの教訓

「キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、罪を負うためになしに二度目に現れて、救いを与えられるのである。」(ヘブル 9:28)

キリストの初臨の時、神の言葉を託されていた聖都の祭司や学者たちは、時のしるしを見わけて約束されたおかたの来臨を宣布することができたはずであった。ミカの預言は、彼の誕生の地を指し示していた。ダニエルは、彼の来臨の時をはっきり示した(ミカ 5:2, ダニエル 9:25 参照)。神はこうした預言を、ユダヤの指導者たちに託された。彼らがメシヤの来臨が近づいたことを知らず、人々に宣布しなかったことに対して、弁解はあり得ない。彼らの無知は、罪深い怠慢の結果であった。……

すべての人々は、世の贖い主をまっ先に歓迎する者の中に入ろうと、目をさまして待っているべきであった。ところが、見よ、ベツレヘムでは、ナザレの山地から来た二人の疲れた旅人が、一夜の泊まる場所を求めて、狭く長い通りを町の東のはずれまで歩いているが得られない。彼らを迎えて開く戸はどこにもない。彼らはついに、家畜を入れるみすばらしい小屋に休み場を見つける。そしてそこで、世の救い主がお生まれになる。……

キリストに対する期待、生命の君を迎える準備は、どこにも見られない。驚いた天使は、この恥ずべき報告をもって天に帰ろうとする。とその時、夜羊の番をしながら星空を仰ぎ、メシヤが地上に来られるという預言を瞑想し、世界の贖い主の来臨を待望している羊飼いの一群を見つける。ここに、天来の知らせを受ける用意のできた一団がいるのである。そこで、突然主の使いが現われて、大いなる喜びの福音を宣言する。……

このベツレヘムの驚くべき物語は、なんという教訓を教えていることであろう。それはなんとわれわれの不信、高慢、うぬぼれを譴責することであろう。それは、われわれもまた、恐るべき無関心に陥って、時のしるしを見分けることができず、そのために神のおとずれの日を知らずに過ごすことがないように、注意するようにとわれわれに警告を与えている。(各時代の犬争闘上巻 401 ~ 404)

イエスがお生まれになった時

「イエスが……ベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東からきた博士たちがエルサレムに着いて言った、『ユダヤ人の王としてお生まれになったかたは、どこにおられますか。』」（マタイ 2:1, 2）

栄光の王は人性をとって身を低くされた。このお方が全天軍の礼拝を受けておられたとき、天の宮廷でその壮麗な輝きを目撃していた天使たちは、驚くほどのへりくだった立場になられた自分たちの天の司令官を見て非常に残念に思った。

ユダヤ人たちは自分のよこしまな仕業によって、神から自分たちを非常に遠くに引き離していたので、天使たちは幼い救い主の来臨という知らせを彼らに伝えることができなかった。神はご自分のみ旨をおこなうために東方の博士たちをお選びになる。……

この博士たちは光に照らされた天を見たが、この光は謙遜な羊飼いたちにキリストの来臨を告げた天軍を包んでいた光であった。……

この光は、遠くに輝く天使の群れであって、明るい星のように現れたのであった。自分たちの見たことのない、大きく輝く星が、天のしるしとしての見慣れない現象は、彼らの注意を引いた。……博士たちは、星が自分を導くように見える道筋をたどった。そしてエルサレムの町に彼らが近づいたとき、その星は闇に包まれそれ以上彼らを導かなかった。彼らはユダヤ人がメシヤの来臨という大いなるできごとに気づかないはずがないと判断して、エルサレムの近辺を尋ねた。

メシヤの出現という主題が何の関心も引き起こさないのを見て博士たちは驚いた。……ユダヤ人がメシヤの来臨というこの偉大なできごとを予期して、喜びもしなければ、関心も示さないことに驚いた。

現代の教会は世俗化が進んでおり、預言の光を見たいとは思わず、ユダヤ人がキリストの初臨に関して示したように、キリストがまもなくこれれるということを示す預言の成就の証拠を、受け入れるつもりはないように見える。ユダヤ人たちは現世での、エルサレムにおけるメシヤの意気揚々とした統治を待ち望んでいた。現代クリスチャンであると公言する者は、世の改心という現世での教会の繁栄と現世での千年期を楽しむことを期待している。（ビュー・アズ・ヘルド 1872 年 12 月 24 日）

再臨の希望

「これらのことをあかしするかが仰せになる、『しかり、わたしはすぐに来る』。アメン、主イエスよ、きたりませ。」(黙示録 22:20)

主の再臨は、各時代において、神の真の弟子たちの希望であった。また来るという、オリブ山上での救い主の、離別にあたったの約束は、弟子たちの未来を明るく照らし、彼らの心を喜びと希望で満たし、どんな悲しみも試練もこれを消し去ることはできなかった。苦難と迫害のただ中であって、「大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現」は、「祝福に満ちた望み」であった。生きて主の来臨を見たいと望んでいた愛する者たちを葬って、悲しみのうちにあったテサロニケの人々に、彼らの教師パウロは、救い主の再臨の時に起こる復活を指し示した。そのときには、キリストにあって死んだ人々がよみがえり、生きている人々と共に引き上げられて、空中で主にお目にかかる。こうして、「いつも主と共にいるであろう。だから、あなたがたは、これらの言葉をもって互に慰め合いなさい」と彼は言った(テサロニケ第一 4:16～18)。……

聖徒や殉教者たちは、牢獄、火刑柱、処刑台において、真理のあかしを立てたが、彼らの信仰と希望の言葉が、幾世紀後のわたしたちに伝えられている。彼らは、「主の復活を確信し、したがって主の再臨の時に彼ら自身も復活することを確認していたので、彼らは死を恐れず、死を超越していた」と、あるキリスト者は言っている。彼らは、「自由の身になって復活する」ために、喜んで墓に下っていった。彼らは、「主が、父の栄光をもち、天の雲に乗って来られ、」「義人たちに王国の時代をもたらされる」のを待望した。ワルド派も同じ信仰を抱いていた。ウィクリフも、贖い主の出現を教会の希望として待望していた。……

岩角険しいパトモス島において、愛する弟子ヨハネは「しかり、わたしはすぐに来る」という約束を聞いた。そして、「主イエスよ、きたりませ」という彼の切実な応答は、流浪のうちにある教会の祈りでもあった(黙示録 22:20)。(各時代の斗争闘上巻 389)

聖書の基調

「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。」(ヨブ記 19:25)

聖書に啓示された最も厳粛で、最も輝かしい真理の一つは、キリストが、贖罪の大きな業を完成するためにふたたび来られるという真理である。長い間、「死の地、死の陰」をたどってきた神の旅人たちにとって、「よみがえりであり、命で」あり、「追放されたものを帰らせ」られる主の出現の約束は、尊く喜びに満ちた希望であった。キリストの再臨という教義は、聖書の基調そのものである。われわれの祖先が、悲しみながらエデンを去った日以来、信仰の子らは、約束のみ子が来られて、破壊者の力をこぼち、失われた楽園に彼らをふたたび連れもどすのを待っていた。……エデンに住んだ者からわずか七代めに当たるエノクは、この地上において、三百年の間神と共に歩み、救い主の来臨をはるか遠くから見ることを許された。「見よ、主は無数の聖徒たちを率いてこられた。それは、すべての者にさばきを行うため」であると彼は言った。また家長ヨブは苦難の夜、ゆるがぬ信頼をもって言った。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。……わたしは肉にあって神を見るであろう。わたしはこのかたを、自分自身で見るであろう。そして、わたしの目がこれを見る。他の者の目ではない」(ヨブ 19:25 ～ 27 英語訳)。(各時代の犬争闘上巻 385, 386)

恵み深い神があなたの理解力を啓発して下さって、あなたが永遠の事柄を識別し、真理の光によって、多くあるあなた自身の誤りがあるがままの状態で見分けることができるように、また、それらを捨て去るために必要な努力をあなたが払い、この邪悪な苦い実の代わりに、永遠の命に至る尊い実を結ぶようにと祈る。

あなたのあわれな自尊心に満ちた、自己義認の心を神のみ前にへりくだらせなさい。そのお方の足もとにあなたの罪深さのために、すべてが砕かれ、低く、非常に低くなりなさい。準備の働きに専念しなさい。あなたが「わたしをあがなう者は生きておられる、そして彼が生きておられるので、わたしもまた生きるのである」と心から言うことができるまで休んではならない。

もしあなたが天国を失うなら、あなたは全てを失う。もしあなたが天国を得るなら、全てを得ることになる。このことで間違いを犯さないようにと、わたしはあなたに嘆願する。ここに永遠の事柄がかかっているのである。(教会への証 2 巻 88)

改革者たちの信仰

「最後の敵として滅ぼされるのが、死である。」(コリント第一 15:26)

ルターは次のように言った。「わたしは、今後三百年もすれば必ず、審判の日が来ると確信する。神は、この邪悪な世界を長く忍ぶことはなさらないであろうし、また、おできにならないのである。」「悪虐な王国を打ち砕く大いなる日が近づいている。」

「この古びた世界は、終末から遠くない」とメランヒトンは言った。カルバンは、「キリストの再臨を、あらゆる事件中の最も喜ばしいものとして、ためらわず、熱心に待望するよう」キリスト者に命じ、「忠実なものの家族全員が、その日を待望するように」勧めている。「われわれは、主がみ国の栄光を十分にあらわされる大いなる日の夜明けまで、飢えかわくようにキリストを求め、たずね、瞑想しなければならない」と彼は言っている。

「われわれの主イエスは、われわれの肉体を天にたずさえて行かれたのではなかったか。そして彼は、帰って来られないであろうか。わたしたちは、彼が帰って来られること、しかもそれが速やかであることを知っている」とスコットランドの改革者ノックスは言った。真理のために生命をささげたりドリとラチマーは、主の再臨を信じて待ち望んだ。「わたしは、この事を信じるから言うのであるが、この世界は疑いもなく終末に近づいている。わたしたちは、神のしもべヨハネと共に、来てください、主イエスよ、来てくださいと、わたしたちの救い主キリストに向かって、心の中で叫ぼう」とリドリは書いた。

「主の再臨を考えることは、わたしには最も楽しく喜ばしいことである」とバクスターは言った。「彼の出現を愛し、祝福された望みを待ち受けることは、信仰のわざであり、聖徒の特質である。」「死が、復活の時に滅ぼされる最後の敵であるならば、この最後の完全な勝利が与えられるキリストの再臨を、信者たちがどんなに熱心に待望し、そのために祈るべきであるかがわかるのである。」「この日こそ、すべて信ずる者の贖罪のすべての働きと、彼らの魂の願望と、努力のすべてが完成されるのであるから、すべての信者は、この日を熱望し、待ちかまえていなければならない。」「主よ、この祝福された日を早めてください。」これが使徒時代の教会の希望であり、「荒野の教会」の希望であり、また改革者たちの希望であった。(各時代の犬争闘上巻 390, 391)

歴史への鍵

『夜回りよ、今は夜のなんどきですか』。夜回りは言う、『朝がきます、夜もまたきます。もしあなたがたが聞こうと思うならば聞きなさい、また来なさい』。(イザヤ 21:11 下旬, 12)

キリスト再臨の希望を理解することが、引き続いて起こる全ての歴史に解明の手がかりを与え、将来の教訓を説明する鍵である。(伝道 220)

真の夜回りの声がいたところで「朝が来ます、夜もまた来ます」と、いま聞こえてくる必要がある。ラッパは、はっきりとした音を出さなければならない。なぜならわたしたちは主の大いなる日のために備える日に生存しているからである。

預言の真理はそれぞれが、共に結びつけられ、わたしたちがそれを学ぶとき、実際のクリスチャンの真理という美しい房を形作る。わたしたちがとく説教はみな、わたしたちが神のみ子の来臨を待ち、そのために働き、祈っているということをはっきり表している。主の来臨はわたしたちの希望である。この希望が、わたしたちの言葉と働き、すべてに伴い、わたしたちのすべての交わりと、関係において結びつけられるべきである。……

人の子の再臨が人々の前に、すばらしい主題としてあるべきである。わたしたちの説教から省いてはならない主題がここにある。永遠の現実を思いの目の前に置き続けなければならない。そうすれば世の魅力は、そのあるがままの状態、すなわち、むなしいものとして、まったくむだなものとしてあらわれる。世の虚栄や称賛、その富、名誉、あるいは楽しみなどと、わたしたちはなんの関わりがあるのだろうか。

わたしたちは祝福された望み、わたしたちの主であり、救い主であられるイエス・キリストの栄光ある出現を待ち望み、祈っている旅人であり、寄留者である。もしわたしたちがこのことを信じ、実際の生活に表しているなら、この信仰と希望がなんと活気にあふれた行動を引き起こしていたはずであろうか。どれほど互いに熱く愛し、どれほど神の栄光のために注意深く、気高い生活をしていただろうか。この報いのことを深く考えて、世とわたしたちの間にどれほどはっきりとした境界線を示したことであろうか。……

キリストがもうすぐ来られるという真理がすべての者の思いの前におかれてい

るべきである。(伝道 218～220)

類以した失望

「忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いている。また、主が彼になされたことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである。」（ヤコブ 5:11）

一般の人々、そして神のしもべたちでさえ、人間の意見、人間の伝説や偽りの教えに目がくらんで、神がみ言葉の中に啓示された大事実のほんの一部しか把握できない場合がよくある。救い主がこの地上におられたときの弟子たちでさえ、そうであった。彼らは、メシヤはイスラエルを世界的王国とするこの世の王であるという一般の思想に染まっていたために、彼の苦難と死に関する預言の意味を理解することができなかった。……

彼らは、生まれたときから、地上王国の栄光を待望するようにしつけられていたので、預言の明細な点も、キリストの言葉も、理解できなかったのである。……

キリストの初臨のときに、「天国の福音」を宣べ伝えた弟子たちの経験は、彼の再臨のメッセージを宣言した人々の経験とよく似ていた。……

ウィリアム・ミラーと彼の仲間、初期の弟子たちと同様に、自分たちが伝えているメッセージの意味を、十分に理解してはいなかった。長い間、教会内で確立されてきた誤りのために、彼らは預言の重大な部分を正しく解釈することができなかった。したがって、彼らは、世界に伝えるために神からゆだねられたメッセージを宣言したけれども、その意味を取り違えて、失望を味わうに至った。……

こうした信者たちに、最初の弟子たちの場合と同様に、試練の時には理解できなかったことが、後に明らかにされるのであった。彼らが、「主が彼になされたことの結末」を見ると、彼らは、誤りの結果、試練を受けたとはいえ、神の彼らに対する愛のご目的は着実に成就していたことを知るのであった。彼らは、神が「いかに慈愛とあわれみとに富」んでおられるかということ、そして「主のすべての道はその契約とあかしとを守る者にはいつくしみであり、まことである」ということを、尊い体験によって学ぶのであった。（各時代の犬争闘下巻 37～48）

謙遜な人々がメッセージを宣布する

「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいつそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くとしびとして、それに目をとめているがよい。」(ペテロ第二 1:19)

このメッセージ〔黙示録 14:6,7〕は、「永遠の福音」の一部として宣言されている。福音宣布の働きは、天使にゆだねられたのではなく、人間に委託されているのである。天使はこの働きを指導するために用いられ、人間の救いのための大運動の任を負わせられている。しかし、福音の実際の宣教は、地上のキリストのしもべたちによって行なわれる。

神の聖霊の感動とこのお方のみ言葉の教えに従った忠実な人々が、この警告を世界に宣言するのであった。彼らは、「夜が明け、明星がのぼる……まで、この預言の言葉を」心にとめていた人々であった(ペテロ第二 1:19)。彼らは、すべての隠された宝以上に神を知ることを求め、それを、「銀によって得るものにまさり、その利益は精金よりも良い」とみなしたのであった(箴言 3:14)。主は、彼らに万国の偉大な事物を啓示された。「主の親しみ(秘密)は主をおそれる者のためにあり、主はその契約を彼らに知らせられる」(詩篇 25:14)。

この真理を理解し、その宣布に従事したのは、博学な神学者たちではなかった。もしも彼らが、祈りつつ勤勉に聖書を研究する忠実な夜回りであったならば、夜の時刻を知ったことであろう。預言は、まさに起ころうとしていたできごとを、彼らに示したことであろう。しかし彼らはそうでなかったために、メッセージは、彼らより劣る人々によって伝えられた。「光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい」とイエスは言われた(ヨハネ 12:35)。神から与えられた光に背をむけ、手近にある光を求めない者は、暗黒のなかに残される。しかし、「わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」と救い主は宣言された(ヨハネ 8:12)。ひたすら神のみこころを行なおうと願い、すでに与えられた光を熱心に心に留める者はだれでも、もっと大きな光を受ける。そのような魂には、天の光に輝く星が送られて、すべての真理に彼を導くのである。(各時代の大争闘上巻 401)

真理は勝利する

「あの御使は……世々限りなく生きておられるかたをさして誓った『もう時がない』。」(黙示録 10:5, 6)

神のさばきの時がきたという、黙示録の 14 章のメッセージは終わりの時に与えられる。そして黙示録 10 章の天使は片足を海の上に、もう一方の足を地に踏みおろしているものとしてあらわされている。すなわち、そのメッセージは遠く離れた国々に伝えられ、海を渡って海に浮かぶ島々も、警告の最後のメッセージが宣言されるのを聞くのである。……

「それから、海と地の上に立っているのをわたしが見たあの御使は、天にむかって右手を上げ、天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるものを造り、世々限りなく生きておられる方を指して誓っていった、『もう時がない』。」(黙示録 10:5, 6)。このメッセージは預言の期間の終わりを告げている。1844 年に主にお会いすることを期待していた人々の失望は、主の来臨を非常に熱心に待ち望んでいた者にとって本当に苦いものであった。この失望がおとずれることは、主の指示であった。……

神が備えないものは一片の雲といえども教会に降りかかったことはない。このような敵対する勢力も、神があらかじめ知っておられないうちに、そのみ働きをくじくため立ち上がったことはない。神がご自分の預言者を通じて預言されたことが、すべて起こるのである。神はご自分の教会を暗闇に置き去りにし、見捨てたりはなさらないで、何が起こるかを予告しておられる。またご自分のみ摂理を通して、世界歴史の中で定められた場所に起こることを預言の言葉の中で宣言しておられる。預言者が予告すべきことを、神の御霊が、靈感として与えられたそのことを神は成し遂げられた。神のご目的はみな成就し、達成される。その律法は御座とつながっている。そして人間の代理人たちと結びついているサタン の代理人たちはこれらを壊すことはできない。真理は神によって靈感を受け、守られる。そして時おり影を投げかけられることがあるかもしれないが、生き続け、成功する。キリストの福音は品性の中で実証された律法である。この福音に対して、かずかずの欺きが行われた。偽りを擁護するためのあらゆる工夫、サタンの代理人が作り出すあらゆる偽りは、ついに永久に破られ、真理の勝利は真昼の太陽のようになる。義の太陽はそのつばさに癒しを乗せて輝きわたり、全地は主の栄光で満たされる。(セラフ・メッセージ 2 巻 107, 108)

わたしたちの主の再臨を早める

「主は、みわざを義のうちに、またすみやかに、地上になしとげられるであろう」(ローマ 9:28 英語訳)

エルサレムの滅亡の預言の中に、キリストは「また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そしてこの御国の福音はすべての人に対してあかしをするために全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後がくるのである」と言われた。この預言はふたたび成就するのである。当時はびこっていた不義は今の時代にもそのまま見られる。福音の宣伝についての預言も同様である。エルサレムの陥落前に、パウロは、聖霊に感じて書き、「この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられた」と、宣言した(コロサイ 1:23)。同じように、いま人の子がこられる前に、この永遠の福音は、「あらゆる国民、部族、国語、民族」に宣べ伝えられるのである(黙示録 14:6)。神は「世界をさばくためその日を定め」られた(使徒行伝 17:31)。キリストはその日がいつはじまるかをお告げになっている。主は世のすべての人が悔い改めるとは言われないで、「この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」と言っておられる。世に福音を伝えることによって、主の再臨を早めることが、われわれの力でできる。われわれは神の日の到来を待っているだけでなく、これを早めるのである(ペテロ第二 3:12)。キリストの教会が命じられた働きを主がお定めになった通りにしていたら、全世界に対する警告はすでに終わって、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの地上においでになっていたのである。(各時代の希望下巻 101, 102)

わたしたちをこれほど長く罪と悲しみに満ちたこの世にとどめておくのは、主の民であると告白する人々の間に不信、世俗の欲に耽ること、献身のなさ、争いがあるからである。……

長年にわたる不従順のゆえにイスラエルの子らのように、わたしたちはこの世に残っていなければならないかもしれない。しかしキリストのために、その民は罪に罪を加えて、自分の間違った人生の行動の結果を神のせいにすべきではない。(伝道 696)

第三天使の最後の警告

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。」(黙示録 18:1)

第三天使のメッセージの宣布に協力する天使は、その栄光で全地を照らすのである。ここに、全世界的で比類のない力を持った働きが予告されている。1840 年から 1844 年に至る再臨運動は、神の力の輝かしいあらわれであった。第一天使のメッセージは、世界の各伝道地に伝えられた。そしてある国々においては、16 世紀の宗教改革以来どの国にもなかったような大いなる宗教的関心が引き起こされた。しかし、第三天使の最後の警告下における大運動は、これをはるかに超えるものとなるのである。……

福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終わることはない。福音の開始にあたって秋の雨(前の雨)となって成就した預言は、その終局において、春の雨(後の雨) となって再び成就するのである。……

神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天からのメッセージを伝えるために、ここかしこ奔走する。全世界の幾千の声によって、警告が発せられる。奇跡が行なわれ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う。サタンもまた、偽りの不思議を行ない、人々の前で天から火を降らすことさえする(黙示録 13:13 参照)。こうして、地上の住民は、立場を明らかにしなければならない。……

伝道者によって配布された文書は、その感化を及ぼした。しかし、感動を受けた人々の多くは、真理を十分に理解して、それに服従することを、妨げられていた。けれども、今、光は至るところにゆきわたり、真理は明らかにされ、神の忠実な子供たちは、彼らを束縛していたかせを絶ち切るのである。家族関係、教会関係は、もはや彼らを止める力がない。真理は他の何物よりも尊いのである。諸勢力が力を結集して真理に反対するにもかかわらず、多くの者が主の側に立つのである。(各時代の争闘下巻 381 ～ 383)

主は永遠に統治される

「第七の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、大きな声々が天に起って言った、『この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となった。主は世々限りなく支配なさるであろう。』」（黙示録 11:15）

正義の時代の到来を告げるキリストの再臨は、聖書記者たちに、最も崇高で熱烈な言葉を言わせたのである。……詩篇記者は、イスラエルの王の力と威光とを歌った。……「主の前に……天は喜び、地は樂し」め。……「天は喜び、地は樂しみ、……主のみ前に喜び歌え。主は来られる、地をさばくために来られるからである。主は義をもって世界をさばき、まことをもってもろもろの民をさばかれる」（詩篇 96:11～13）。

預言者イザヤも次のように言った。……「主はとこしえに死を滅ぼし、主なる神はすべての顔から涙をぬぐい、その民のはずかしめを全地の上から除かれる。これは主の語られたことである」（イザヤ 25:8）。……

救い主は、弟子たちから離れていこうとするにあたり、また来るという確証を与えて、彼らの悲しみを慰められた。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。……わたしの父の家には、すまいがたくさんある。……あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう」（ヨハネ 14:1～3）。……

キリストの昇天後、オリブ山にとどまっていた天使たちは、キリスト再臨の約束を弟子たちにくり返した。「あなたがたを離れて天に上げられたこの同じイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」（使徒行伝 1:11 英語訳）。また、使徒パウロは、靈感に動かされて次のようにあかしした。「すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる」（テサロニケ第一 4:16）。パトモスの預言者も、「見よ、彼は、雲に乗ってこられる。すべての人の目、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう」と言っている（黙示録 1:7）。彼の再臨には、「神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時」の輝かしい光景が関連している（使徒行伝 3:21）。そのとき、長く続いた悪の支配が砕かれて、「この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となった。主は世々限りなく支配なさるであろう」（黙示録 11:15）。（各時代の斗争闘上巻 386～388）

エリヤの預言

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである」。(マラキ 4:5, 6)

キリストの再臨のために道を備えるすべての者は、忠実なエリヤとして表されている。それはバプテスマのヨハネがキリストの初臨のための道を備えるためにエリヤの霊をもってきたのと同じである。(教会への証 3 巻 62)

バプテスマのヨハネの働きと、最後の時代に、心を動かされ、エリヤの霊と力のうちに前進する人々の働きは多くの点において同じである。ヨハネの働きは、現代になされなければならない働きの一つの型である。キリストは世を正義のうちにさばくために二度目に来られるのである。(サザン・ウォッチマン 1905 年 3 月 21 日)

ヨハネは友人やぜいたくな生活から自分を引き離した。らくだの毛で織った衣という、衣服の単純さはユダヤの祭司たちや一般の人々のぜいたくや見せびらかしに対する、いつまでも続く譴責であった。いなご豆とハチミツという単純な野菜の食事は、あらゆるところにはびこっている食欲の放縦、また暴飲暴食に対する譴責であった。……改革という大いなる主題が熱心に討議され、一般の人々の心が動かされるべきである。偶像礼拝、暴飲暴食、服装、その他におけるぜいたくから神の民の心を向きかえるためにあらゆることにおいて節制がそのメッセージと結びつかなければならない。

神が特別に導き、祝福しておられる義人に要求されている克己と謙遜、また節制をこの墮落した時代に生きている人々のぜいたくで健康を破壊するような習慣と対照的に人々に示さなければならない。手が体の一部であるように、健康改革は第三天使のメッセージと密接につながっていることを、神は示された。

バプテスマのヨハネが……十戒に人々の注意を向けたようにわたしたちは、はっきりとした声で、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである」とメッセージを伝えなければならない。預言者エリヤや、バプテスマのヨハネを特徴づけた熱心さで、わたしたちはキリストの再臨へ道をそなえるために一生懸命努力しなければならない。(SDA パイブル・コメント [E・G・柯朴・コメント] 4 巻 1184)

イエスを中心として掲げる

「わたしは、ダビデの若枝(根) また子孫であり、輝く明けの明星である。」(黙示録 22:16)

最後の時代の危難がわたしたちに迫っている。だからわたしたちは自分の働きの中で人々に、彼らが危険に陥っていることを警告しなければならない。預言が示している厳粛な光景に触れないまま放っておいてはならない。もしもわたしたちの民が半分でも目覚めているなら、黙示録で描写されているできごとが近いことに気づくなら、わたしたちの教会に改革が起こり、もっと多くの者がメッセージを信じるであろう。わたしたちには無駄にする時間はない。……新しい原則を提示し、明快な真理のうちに押し進みなさい。そうすればこのメッセージは諸刃の剣のようになるであろう。しかしあまりにも論争するような態度をとってはならない。わたしたちは静かに立って、神の救いを見なければならぬ時がある。何が真理であるかをダニエルに語らせ、黙示録に語らせなさい。しかし、主題のどのような局面が示されても、「ダビデの若枝(根) また子孫であり、輝く明けの明星である」あらゆる希望の中心としてイエスを掲げなさい。

わたしたちは真理を十分に深く探求していない。現代の真理を信じるすべての魂は、自分の内にある望みの理由を説明するように要求されるところへ導かれるようになる。神の民は王や、総督、支配者や、地上の偉い人々の前に立つよう呼び出される。だから彼らは何が真理であるかを、知っていなければならない。彼らは改心した男女でなければならない。あなたが地上の偉大な人々から学ぶことができる何倍もの量を神は聖霊によって一瞬の間にあなたに教えることができる。宇宙は地上で行われている争闘を見つめている。神は無限の価をもって、すべての人のために、救いに至る知恵を得る機会を用意しておられる。この機会をだれが利用するかを、天使たちはどれほど熱心に見守っていることであろうか。メッセージが神の民に示されるとき、それに逆らって立ち上がってはならない。彼らは聖書に向かい、律法と証とに照らすべきである。そして、もしこのテストに耐えないなら、それは真実ではない。神はわたしたちの心を広げたいと望んでおられる。ご自分の恵みをわたしたちに注ぎたいと願っておられる。わたしたちは日々良いものを豊かに受けることができる。なぜなら、神はわたしたちに天の宝庫をすべて開くことがおできになるからである。(牧師への証 118, 119)

畑は全世界

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として（教え）、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し」（マタイ 28:19）

1874 年にカリフォルニアに滞在中、わたしは印象的な夢を見た。……

カリフォルニアにいる兄弟のうち、数名が会議を開いて次年度の働きのために最上の計画を立てようとしている夢を見た。……

わたしが夢の中で、度々見たことのある若い男性が、会議の場に入ってきた。彼はそこで話されていることに深い関心をもって聞いていた。それから慎重に、そして信頼に足る確信をもって、次のように言った。

「町々や村々は主のぶどう園の一部を構成している。そこに住む人々は警告のメッセージを聞かなければならない。真理の敵は人々を神の真理からそらして、偽りのほうへ向けようと、死に物狂いの努力をしている。……あなたがたはすべての水のほとりへ種をまくべきである。

あなたが自分の骨折りの結果をすぐに見ることはないかもしれないがそのことで落胆したりしてはならない。キリストをあなたがたの模範としなさい。主の言葉を聞く者は多かったが、従う者は少なかったのである。」……

使命者は言葉を続けた。「あなたがたは今回の働きについてあまりにも狭い考えに捕らわれている。あなたがたは自分の腕にかかえられる程度の働きを計画しようとしている。もっと広い視野をもたなければならない。家の中にあるすべてのものに光を照らすことができるように、あなたの持っている光を枡や寝台の下に置くのではなく、燭台の上に置かなければならない。あなたがたの家とは、世界である。……

多くの国々は、主が彼らのために持つておられる前進した光を待っている。それなのにあなたがたの信仰は限られており、非常に小さい。働きに対するあなたがたの概念は、はるかに大きくなる必要がある。……前進しなさい。あなたが神の御前にまったく謙遜な心で歩むなら、神は大いなる力をもって働いてくださる。不可能を語るのとは信仰ではない。神には不可能なことはない。拘束力を持つ神の律法の要求という光が……世界を……テストしなければならない。……

時は短い。だからこのメッセージを信じる者はみな、私心のない働き人として自分に厳粛な義務が置かれており、自分の感化を正しい側に及ぼすべきであることを自覚しなければならない。そして、神の働きのために前進しようとしている人々に対して、決して言葉や態度で反対するようなことのないようにしなさい。……神がわたしたちに与えておられる光は、世の人々の前にそれが提示されないなら、彼らにとってそれほど価値はない。」（エノ・G・初任のライフ・スケッチ 208～210）

地における神のさばき

「人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである。」(ルカ 21:26)

ああ、今、ほとんど偶像崇拜に陥ってしまっている何千という町々に今にも起ころうとしている滅亡に対する意識を神の民がもっていれば良いのに。……

先頃、非常に印象的な光景がわたしの前を通り過ぎた。数え切れないほどの火の玉が、いくつもの立派な大邸宅に落ちてきて、すぐに破壊してしまったのをみた。だれかが、「わたしたちは地に神のさばきがくだることを知っていた。しかし、それがこれほど早く来とは思わなかった」というのが聞こえた。他の者は、「あなたは知っていたのか、それならなぜそのことをわたしたちに言わなかったのか。わたしたちは知らなかった。」と言った。いたるところで、このような会話がなされていたのをわたしは聞いた。……

まもなく諸国民の中に悲しむべき悩みが起こる。すなわち、イエスが来られるまで止むことのない悩みが起こる。天にご自分の御座をもうけておられるお方、その王国が万物を支配しているお方に仕えて、わたしたちはかつてなかったほど、ともに押し進む必要がある。神はご自分の民を見捨てられたことはなかった。そして、わたしたちの強さは神を捨てないことにある。

神のさばきが地にある。戦争と戦争のうわさ、また火や洪水による破壊は終わりのときまで増大していく困難の時がすぐそばまで来ていることをはっきりと示している。わたしたちには無駄にする時間はない。世界は戦争の精神にかきたてられている。ダニエル 11 章の預言はもうほとんど成就している。……

先週の金曜の朝、目覚める直前、非常に印象的な光景がわたしの前に展開した。わたしは眠りから覚めているようであったが、自分の家にいたのではなかった。窓から猛烈な大火事が見えた。大きな火の玉が家々に落ち、これらの火の玉から燃えさかる矢があらゆる方向に飛んでいた。燃えている火を消すのは不可能だったので多数の建物が全焼していた。人々の恐怖は言葉に言い表せないものであった。

諸国の町々は厳しく取り扱われるが、この上ない神の憤りはまだ降りかかっていない。なぜなら、大多数の者が天罰の下る火に対して怒りを積み上げている間、幾人かの魂がまだ敵の惑わしから目覚め、悔い改めて、改心するからである。(伝道 27)

より良く、より気高い道

「あなたがたは身を洗って、清くなり、わたしの目の前からあなたがたの悪い行いを除き、悪を行うことをやめ」よ。(イザヤ 1:16, 17)

霊と肉と精神とを腐敗させる無知、快楽への愛、邪悪な習慣はこの世に道徳的墮落を充満させる。命にかかわる道徳的マラリヤは幾千幾万という人々を滅ぼしている。(アドベンチスト・ホーム 369)

多くの人が罪に沈んでいる。多くの人が悩んでいる。彼らは苦しみや困窮、不信、失望に押しつぶされている。あらゆる種類の病気が、肉体も魂も共に苦しめる。彼らは自分たちの苦労に対して慰めを得たいと切望するが、サタンは滅びや死に導く肉欲や快楽を求めるようにと、彼らを誘惑する。彼は人々に口の中で灰に変わるソドムのりんごを提供している。(伝道 569)

世の状態について恐ろしい光景がわたしの前に示された。不道徳が至る所に多く行なわれている。淫蕩（いんとう）は現代独特の罪である。今日ほど悪がかくまで厚かましくその醜い頭をもたげた時代はない。……おびただしい罪悪は、未信者や嘲笑者たちにのみ限られているわけではない。そうであればよいのであるが、そうではないのである。キリストを信ずると自称する多くの男女が罪を行なっている。主の再臨を待つと言っている者のある人たちでさえ、サタンよりもつとその事のために何の準備もしていないのである。彼らはすべてのけがれから自らを清めていない。彼らは長いこと欲望に仕えてきたので、思考がけがれ、想像力が墮落するのは当然である。彼らの心に清純で神聖なものを思わせることは、ナイアガラ瀑布の水を逆流させるのと同じくらい不可能である。……

クリスチャンはみな情欲を抑制し、原則によって支配されることを学ばなくてはならない。彼はこうしない限り、クリスチャンと名乗るにふさわしくないのである。
……

もし好色、暴行、姦淫、犯罪、殺人などが真理を知らず、神のみことばの原則によって支配されることを拒む人々の間で流行しているなら、神の御使たちと緊密に組んで、キリストに従う者であると自称する種類の人たちが、彼らによりよい高潔な道を示すことはいかに重大なことであろう。彼らの純潔と徳行によって、野卑な情熱に支配されている種類の人たちに対し、彼らが著しい対照をなして立つことはいかに重要なことであろう。(アドベンチスト・ホーム 368, 369)

大いなる叫びが響く時

「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。」(ローマ 13:11)

終わりは近い。夜、盗人が音もなく近づくように、ひそかに、いつの間にかわたしたちに近づいている。わたしたちが他の人のように、これ以上眠るのではなく、よく見張って、酔っていない状態に主がして下さるように。真理はまもなく莊嚴に勝利し、神の共労者となるのを今選ぶ者は、真理と共に勝利する。時は短い、まもなくだれも働くことができない夜が来る。……

使徒が聖霊を受けた後、ペンテコステの日を起こったように、一日のうちに多くの人が改心する時が来る。……

多くの人は福音の招きに耳を傾けようとしていない。彼らはテストされ、試みられている。

しかし、山のような障害が彼らの面前に現われ、前進するのを妨げるように思えるのである。信仰、忍耐、そして勇気を通して、多くの人はこれらの障害を克服して栄光に満ちた光に歩む。

ほとんど気づかないうちに細くて狭い道に、障壁が立てられていた。道にはつまずきの石が置かれていた。これらは転がり去るのである。偽りの羊飼いが自分の群れの回りに投げかけていた防御策は無効になる。何千もの人が光に歩み出し、光を広めるために働くようになる。天の知的存在者たちが人間の代理人と結合する。このように勇気づけられて、教会は本当に立ち上がって輝き、この戦いに聖化された精力をすべて注ぎ込む。こうして、神のご計画は成就し、失われていた真珠が取り戻されるのである。……

大いなる叫びの間、高められた主のみ摂理的な介入によって助けを受けた教会は非常に豊かに救いの知識を広めるので、光はあらゆる都市や町に伝えられる。地は救いの知識で満たされる。回復させる神の御霊は、熱心で活動的な代理人に対して、非常に豊かに、成功をもって報いて下さるので現代の真理という光があらゆるところに明るく照らされるのが見られるようになる。(伝道 692～694)

忠実な者は失敗しない

「ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」(黙示録 14:12)

聖書を読み、探るには人間の知識以上のものが今必要である。そしてもしわたしたちが謙遜な心で神のみ言葉に近づくなら、神は不法な要素に対抗して、わたしたちのために旗印を掲げて下さる。

自分の確信を初めから終わりまで堅く保つのは難しい。そしてその難しさは、他の精神へ導こうとする隠れた感化力、すなわちサタンの側での懸案である反作用的な要素が絶えず働いているときに増すのである。迫害が止んでいるときには、健全であるように見え、そのキリスト教精神が確固としているように思える人々が、わたしたちの側に加わっている。しかし、迫害が起これば、彼らはわたしたちから出てゆく。危難のとき、彼らは自分の心に影響を及ぼしていたもつとらしい論法に力を認めるのである。サタンはさまざまな心に見合った色々ななを留意している。神の律法が無効にされるとき、教会は火のような試練でふるわれる。そして現在わたしたちが予想するよりもはるかに大きな割合の人々が、人を惑わす悪魔の精神や教理に注意を払うのである。多くの人は困難な立場に置かれたとき、強固になるのではなくて、自分が真のぶどうの木の生きた枝ではないことを明らかにする。……

しかし、世が神の律法を無効にすると、真に従順な義人にどのような結果がもたらされるであろうか。彼らは悪の強い流れに押し流されるのだろうか。非常に多くの者が闇の君の旗の下に並んでいるので、神の戒めを守る人々は、神への忠誠からそれるのだろうか。決してそのようなことはない。キリストのうちに宿っている者は一人として失敗したり、倒れたりしない。キリストに付き従う者はいかなる地上の大実力者の権威よりも、もっと気高い権威に従順にひざをかがめる。神の戒めに対する侮りによって、多くの人々は真理を抑圧し、敬意をますます示さなくなる一方、忠実な者は、その特徴的な真理をますます熱心に高く掲げる。わたしたちは自分勝手な方向に進むままに放って置かれたりはしない。……わたしたちは謙遜な心で神のみ言葉を調べ、その勧告をたずね求め、自分の意志を神のみ旨に委ねるべきである。わたしたちは神なくしては何も行ふことはできない。(セレクテッド・メッセージ 2 巻 368, 369)

一人の魂をも勝ち取る働き

「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。」(ルカ 15:4)

一人の魂の改心のために、わたしたちは最大限度にまで自分の持っているものをつかわなければならぬ。キリストへ勝ち取られた一人の魂はその人の回りにいるすべての人に天の光を投げかけ、道徳的な暗闇を貫いて、他の魂を救う。

もしもキリストが99匹の羊をその場において迷子になった一匹の羊を探し、救われるのなら、わたしたちは行動を惜しむことが正当化できるだろうか。キリストが働かれたように働き、犠牲を払われたように犠牲を払うのを無視することは聖なる信頼に対する裏切り、神への侮辱ではないだろうか。

地の隅々にいたるまで警告をひびかせなさい。主の日が近く、間近に迫っていることを人々に告げなさい。だれも警告を受けなくて放って置かれるようなことがあってはならない。わたしたちが過ちに陥っているあわれな魂の立場にいたかもしれないのである。わたしたちは、未開人の中におかれていたかもしれないのである。他の人々にまさって真理を受けているのであれば、その分人々に受けた真理を分け与えるという点においてわたしたちには負債がある。

わたしたちには無駄にする時間はない。終わりは近い。あちらこちらと真理を伝えるための通路は、まもなく右も左も危険に囲まれるようになるであろう。主の使命者の道をふさぐためにあらゆるものが置かれるので、今はできていることがその時にはできなくなる。わたしたちは自分の働きを公正に直視して、激しい戦いの中をできる限り早く進んでいかなければならない。神から与えられた光によると、闇の力は下からの猛烈なエネルギーをもって働いており、狼が自分の獲物を捕らえるように、サタンは今眠っている人々を捕らえるためにひそかなわなを用意して近づいていることが分かる。わたしたちには今与えることのできる警告があり、今なすことのできる働きがある。しかしまもなく、これらのことが、わたしたちの想像する以上に困難になるであろう。わたしたちの指揮官であられるイエスにわたしたちの視線を注いで働き、勝利を得るために忍耐強く、辛抱強く押し進むために、神はわたしたちが光の通路の中にい続けることができるよう助けてくださる。(教会への証 6 巻 22)

この地上生活において、罪のゆえに制限されてはいても、奉仕には、最上の喜びとこの上なく気高い教育がある。未来の国では罪深い人間の限界によって拘束されることはないが、わたしたちのこの上ない喜びと最高の教育が見出されるのは、やはり奉仕においてである。(信仰によってわたしは生きる 370)

ダニエル書と黙示録の研究

「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとはさいわいである。時が近づいているからである。」(黙示録 1:3)

諸教会を目覚めさせるメッセージが宣言されなければならない。わたしたちの仲間ばかりでなく、全世界に光を与えるために、あらゆる努力がなされなければならない。ダニエル書と黙示録の預言を小冊子に印刷して必要な説明をつけ、全世界に送らなければならないと、わたしは指示されている。わたしたちの仲間は自分の前に置かれた光をもっとはつきりと持つ必要がある。(牧師への証 117)

神の御子の肉を食べ、血を飲む者は、ダニエル書と黙示録から、聖霊によって靈感を受けた真理をもたらす。彼らは抑えることのできない力ある行動をし始める。人々の思いには隠されている神秘を宣布するために子どもたちの唇が開かれる。……

多くの預言は矢継ぎ早に成就しようとしている。力のあらゆる要素が働きに取りかかろうとしている。過去の歴史が繰り返される。昔の争闘が生き返り、危難が神の民を四方八方から襲う。危機感が全人類家族を支配する。それは地上のすべての事にいきわたる。……

ダニエル書と関連させて黙示録を研究しなさい。歴史はくり返すからである。……わたしたちは宗教上の利点をすべて用いて、今日知っているよりもはるかにたくさん知るべきなのである。

悔いた心で神のみ言葉を探り、神だけがお与えになることのできる知識についてより大きな長さ、広さ、深さ、高さを祈り求めている人々に示される真理を、天使たちは伺い見たいと願っている。

わたしたちは世界歴史の終わりに近づいているので、最後の時に関する預言を特に研究する必要がある。新約聖書の最後の書はわたしたちが理解する必要のある真理に満ちている。サタンは多くの人々の心を盲目にしているので、彼らは黙示録を自分の研究対象としないための言い訳を何でも喜んでいる。しかし、しもべヨハネを通して、キリストは、ここで最後の時に起こることを宣言しておられる。主は「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである」と言われる。(同上 116, 117)

不寛容と迫害

「もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害するであろう。また、もし彼らがわたしの言葉を守っていたなら、あなたがたの言葉をも守るであろう。」(ヨハネ 15:20)

さまざまな形の迫害は、サタンが存在し、キリスト教が生きた力を持っているかぎり存続する原則の展開である。暗黒の軍勢の反対を受けることなしに、神に仕えることができる者はいない。悪天使たちは、彼の影響によって彼らの手から獲物が奪われることを恐れて、彼を攻撃する。彼の模範によって譴責を受けた悪人たちは、悪天使たちと力を合わせて、魅力的な誘惑をもって彼を神から引き離そうとする。それでも成功しなければ、今度は強制的な力を用いて良心に強いるのである。

しかし、天の聖所において、イエスが人間の仲保者としておられるかぎり、聖霊の抑制力が支配者と国民に及んでいるのである。それは今なお、ある程度国家の法律を支配している。このような法律がなかったならば、世界の状態は現在よりはるかに悪化していたことであろう。この世の支配者の多くは、サタンの有力な手下であるが、神もまた国家の指導者たちの中に、ご自分の代表者を持っておられる。敵はそのしもべたちを動かして、神の働きをはなはだしく阻止するような法案を提出するが、主を恐れる政治家たちは、聖天使に動かされて、このような提案に断固として反対する。こうして、数名の者が、悪の強力な潮流を阻止するのである。真理の敵たちの反対は、第三天使のメッセージがその働きを遂行するために、抑制される。最後の警告が発せられるとき、それは、今主の働きの器になっているこれらの有力者たちの注意をひく。そして、彼らの中のある者は、それを受け入れ、神の民とともに立って、悩みの時を通過するのである。……

「シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。……」(ヨエル書 2:23)。「神がこう仰せになる。終りの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。」「そのとき、主の名を呼び求める者は、みな救われるであろう」(使徒行伝 2:17, 21)。

福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終ることはない。(各時代の斗争闘下巻 380 ～ 382)

教会は倒れない

「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。」(マタイ 16:18)

神の戒めとイエスの信仰を守る者は、龍とその手下の怒りを身に感じるであろう。サタンは世を自分の臣下であると思っており、背教した教会の支配権を得ている。しかしここに、彼の主権に抵抗している小さなグループがある。もし、サタンが彼らを地上から抹殺することができるなら、彼の勝利は完全なものとなる。彼はイスラエルを滅ぼすために、異教の国々に感化を与えたように、近い将来、神の民を滅ぼすために地上のよこしまな勢力をそそのかすであろう。……神の民の唯一の希望は神の憐れみのうちにあり、唯一の守りは祈りである。

エステルの時代に神の民に訪れた試練の経験は、その時だけの特別なものではない。時の終わりに向かっている時代を見すえていた黙示録記録者は次のように宣言している。「龍は女に対して怒りを発し、女の(すえの)残りの子ら、神の戒めを守り、イエスのあかしを持つている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った」(黙示録 12:17)。今日、地上に生きている者の内で、ある人々はこの言葉が成就するのを見るであろう。

自分の時が短くなるにつれてサタンの怒りは増し、彼の欺きと破壊の働きは、悩みの時に最高潮に達する。(信仰によってわたしは生きる 289)

サタンは欺くために奇跡を行う。彼は自分の力を最高のものとして掲げる。教会は今にも倒れるかのように見えるが倒れない。シオンにいる罪人がふるわれ、すなわちもみ殻が貴重な麦から分けられている一方で、教会は残る。これは厳しい試練であるが、それでも受けなければならない。小羊の血と自分の証の言葉によって勝利をする者以外はだれも忠実で真実であると認められず、罪というしみや、しわがなく、その口には偽りがいない者とはみなされない。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 911)

神は母親がその子を忘れるようなことがあっても「わたしはあなたを忘れることはない」と宣言しておられる。……神はこの上なくやさしい配慮をしつつ、ご自分の子らのことを思っておられ、御前に覚えの書をいつも置いておられるので、ご自分の保護が必要な子らのことを決してお忘れになることはない。(信仰によってわたしは生きる 280)

偽りのリバイバル

「しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、……信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。こうした人々を避けなさい。」(テモテ第二 3:1, 2, 5)

地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会から離れる。牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が今宣布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる。魂の敵は、この働きを妨害しようとする。そして、こうした運動が起こる前に、偽物を提示することによってそれを妨害しようとする。彼は、自分の欺瞞の力のもとに置くことのできる諸教会において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。大いなる宗教的関心と思われるものが現われる。多くの人々は、神が彼らのために驚くべきことをしておられると喜ぶが、それは、別の霊の働きなのである。宗教的装いのもとに、サタンは、キリスト教世界に自分の勢力を広げようとする。

過去半世紀の間に起こったリバイバルの多くには、将来大規模にあらわれるのと同じ勢力が、多少とも働いていた。そこには感情の興奮と、真理と虚偽の混合が見られ、それは人を欺くのに好適なのである。しかし、だれも欺かれる必要はない。神の言葉に照らしてみるならば、これらの運動の本質を見定めることは、むずかしいことではない。人々が聖書の証言をおろそかにし、克己と世俗の放棄とを要求する明快で人の心を試す真理から顔をそむけるならば、神の祝福を受けることができないのは確かである。そして、「その実によって彼らを見わけよう」という、キリストご自身がお与えになった規準によって、これらの運動は神の霊の働きではないことが明らかなのである(マタイ 7:16)。(各時代の大争闘下巻 190, 191)

独断的で不注意な遅れ

「見よ、わたしは盗人のように来る。裸のままで歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。」(黙示録 16:15)

この悪いしもべは、「主人の帰りがおそい」と心の中で思っている。彼は、キリストがおいでにならないとは言わない。彼は主の再臨という考えを嘲笑しない。しかし心の中で、またその行為とことばによって、主の来臨が遅いと言明する。彼は、ほかの人たちの心から、主はすみやかにこられるという確信を追い出す。彼の影響で、人々の間に独断的で不注意な遅れが生じる。……彼は世俗の人たちにまじる。……それは恐るべき同化作用である。世俗の人たちといっしょに彼はわなに捕えられる。……

「もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない」(黙示録 3:3)。キリストの来臨にはせ教師たちの不意を襲う。彼らは、「平和だ無事だ」と言っている(テサロニケ第一 5:3)。エルサレムが陥落する前の祭司たちと教師たちのように、彼らは教会が世俗的な繁栄とほまれを受けることを期待する。彼らは時のしるしをこの事の予表として解釈する。しかし靈感のことばには何とされているだろうか。「突如として滅びが彼らをおそって来る」(テサロニケ第一 5:3)。全地に住んでいるすべての者たちに、この世をわが家としているすべての者たちに、神の日はわなのようにやってくる。それは忍び足の盗人のように彼らにやってくる。……

世は放とうに満ち、邪悪な快楽に満ちて、現世的な安全の中に眠っている。人々は主の来臨をずっとのちのことにしている。彼らは警告をあざ笑う。「すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない」。「あすも、きょうのようであるだろう、すばらしい日だ」という高慢な誇りが表明される(ペテロ第二 3:4、イザヤ書 56:2)。もっと大いに楽しもうというのである。しかしキリストは、「見よ、わたしは盗人のように来る」と言われる(黙示録 16:5)。世の人々が嘲笑して、「主の来臨の約束はどうなったのか」とたずねているその時に、しるしは成就しつつある(ペテロ第二 3:4)。彼らが「平和だ無事だ」と叫んでいる時に、突然の滅びがのぞみつつある(テサロニケ第一 5:3)。嘲笑する者、すなわち真理をこぼむ者が僭越になったとき、各方面の金もうけ仕事が原則を無視してくりかえされているとき、研究者が聖書以外のあらゆる知識を熱心に求めているとき、キリストは盗人のように来られる。(各時代の希望下巻 103～105)

勝ちとるべき天国

「絶えず目をさまして祈っていないさい。」(ルカ 21:36)

わたしたちが生きている時代は厳粛で重要な時代である。神の御霊は少しずつ、しかし確実に地上から取り去られている。……

世界におきている事柄の状況は騒然とした時代がすぐに来ることを示している。新聞は近い将来恐ろしい闘争が起こるという暗示に満ちている。大胆な強盗行為がたびたび起こっている。ストライキは普通である。盗みと殺人がいたるところで行われている。悪霊に取り付かれた人間は、男や女や小さい子供らの命を取っている。人々は広く行われている悪い行いと、あらゆる種類の悪に夢中になっている。(教会への証 9 巻 11)

世のすべてのものが激動している。時のしるしは険悪な兆候を示している。きたるべき事件が影を前方に投げかけている。神の御霊は地から引き上げつつあり、海と陸に次々と災害が起こっている。嵐、地震、火事、洪水、あらゆる種類の殺人が起こっている。……人々は自分の選んだ旗の下に急いで参加している。落ちつかないで彼らは自分たちの指導者たちの動きを待ち、見守っている。主の現われを待ち、見守り、そのために働いている人たちがいる。もう一方の種類の人たちは最初の大背信者の統率下に参加している。避けるべき地獄と獲得すべき天国とがあることを全霊から信じている人は少ない。

危機は徐々にわれわれに忍びよっている。太陽は空に輝き、いつもの軌道を通り、……人々は最高の地位を争ってお互いに押しのけあっている。快楽を愛する者たちがあいかわず劇場や、競馬や、ばくち場におしかけている。最高の興奮が行き渡っているが、恩恵の時は急速に閉じられつつあり、各人の運命が永遠に決定されようとしている。……

オリブ山での主の警告のことばは、幾世紀を経て今日のわれわれに厳粛にひびいてくる。「あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していないさい。」(各時代の希望下巻 105,106)

見張っている者への祝福

「主人が帰ってきたとき、目を覚めているのを見られる僕たちは、さいわいである。よく言うておく。主人が帯をしめて僕たちを食卓につかせ、進み寄って給仕してくれるであろう。」(ルカ 12:37)

神はきたるべき裁きについていつも警告をお与えになってきた。自分たちの時代に対する神のみ言葉を信じ、神の戒めに従って信仰を实践した人たちは、従わない者たちや、信じない者たちの上に落ちかかった裁きをまぬかれた。「あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代の人々の中で、わたしの前に正しい人であるとわたしは認めたからである」ということばがノアに与えられた(創世記 7:1)。ノアは従い、そして救われた。ロトに、「立つてこの所から出なさい。主がこの町を滅ぼされます」ということばが与えられた(創世記 19:14)。ロトは天の使者たちの守りに身をゆだね、そして救われた。そのようにキリストの弟子たちは、エルサレムの滅亡について警告を与えられた。きたるべき滅亡のしるしを見守っていた人たちは都をのがれて、滅亡をまぬかれた。そのようにいまわれわれは、キリストの再臨と世にのぞもうとしている滅亡について警告が与えられている。この警告に注意する者は救われるのである。

キリスト来臨の正確な時はわからないのだから、目をさましているようにと命じられている。「主人が帰ってきたとき、目を覚めているのを見られる僕たちは、さいわいである」(ルカ 12:37)。主の来臨を待ち望んでいる者たちは、何もしないでただ期待して待っているのではない。キリストの来臨を期待することによって、人々は主を恐れ、不義に対する主の裁きを恐れるのである。彼らは主がさし出されたあわれみをこぼむ大きな罪を自覚するのである。主を待ち望んでいる者たちは真理に従うことによって自らの魂をきよめる。彼らは油断のない警戒に熱心な働きを結合する。彼らは、主が戸口におられることを知っているので、魂の救いのために天使たちと協力して働くように熱意をよび起こされる。こういう人たちが主の家族に、「時に応じて定めの手をそなえさせる忠実な思慮深い」しもべたちである(ルカ 12:42)。彼らはいま特にあてはまる真理を宣べ伝えている。エノク、ノア、アブラハム、モーセがそれぞれの時代のために真理を宣べ伝えたように、キリストのしもべたちはいまこの世代に対する特別の警告を与えるのである。(各時代の希望下巻 102, 103)

四方に悩み

「すべて主の命令を行うこの地の柔和な者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう。」(ゼパニヤ 2:3 英語訳)

キリストの血によってあがなわれ、神の栄えをあらわすために才能をゆだねられている人々が、福音を通してあたえられている恩恵のメッセージをあざけるようになり、キリストの神性を否定し、自分自身の限りある理性と、根拠のない理屈に依頼するのを見ることくらい悲しい光景はない。苦難の試練を受けたり、死に直面したりすると、彼らのいっていたすべての誤謬は太陽にあたった霜のように解け去ってしまう。

神の恩恵の訴えをしりぞけた人のひつぎの前に立つことは、なんという悲惨なことであろう。最高の標準に達し、不滅の生命を得ることができたかもしれないのに、生涯をサタンに屈服させ、人間のむなしい哲学のとりことなり敵のなぐさみものになって、生命を滅ぼした人がここに横たわっていると言われることは、なんという悲しいことだろう。クリスチャンの望みは、魂にとって安全にし不動にする錨であり、かつ「幕の内」にはいり行かせるものであり、そこにキリストがわたしたちのためのさきがけとなって入られたのである。わたしたちは、目の前にある大いなる事件のために準備するために、なさねばならないそれぞれの働きを持っている。

青年たちはもっと熱心に神を求めなければならない。あらしはまもなくやってくる。わたしたちは、神に対して悔い改め、主イエス・キリストを信じて、荒れ狂うあらしに備えなければならない。主は立ちあがって、恐ろしい勢いで地を揺り動かされるであろう。四方に悩みが起る。幾千の船が海の底にのみ込まれる。艦隊は沈み、幾百万の人命が失われる。不意に火災が起り、人間がどんなに努力してもその火を消すことはできない。地上の宮殿はすべて怒りの炎の中に跡かたもなく消えてしまう。鉄道事故はますます相次いで起り、大きな旅客輸送路に混乱や衝突や死が、一刻の前ぶれもなく突発する。終末は近く、恩恵期は閉ざされようとしている。神のお姿が見えているうちに神を求め、神が近くにおられる間に神を呼びもとめよう。預言者はこう言っている、「すべて主の命令を行うこの地の柔和な者よ、主を求めよ。正義を求めよ。けんそんを求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう。」(青年への使命 79, 80)

魂のためのとりなしの祈り

「また、よく言うておく。もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであらう。」(マタイ 18:19)

バトルクリークで改心していない人々に対する重荷を感じている人々がおり、また暗黒のうちにあって、光が見えない人々がいたとき、そのために神の力を自分たちの力とするための祈祷会が行われていたことを思い出す。あらゆるケースにおいて天軍はこれらの努力に協力し、魂は救われたのである。(原稿 32, 1893 年)

もし教会にメンバーがたくさんいるなら、教会員のためだけでなく、未信者のためにも働くように、小さいグループにわけなさい。もしも真理を知っている人が一ヶ所に二、三人しかいなければ、働き人の一団に彼らを加えなさい。彼らに一致という絆を保つようにさせ、愛と約束のもとに共に押し進み、互いに助け合って、勇気と力をそれぞれが得るようにしなさい。一人一人がキリストのような自制心と忍耐を示し、性急な言葉を口にせず、この上なく気高い信仰に高めるために言葉のタラントを用いさせなさい。囲いの外にいる人々に対して、キリストのような愛をもって働かせなさい。……彼らがキリストのみ名によって働き、また祈るとき、その数は増える。(教会への証 7 巻 22)

なされるべき家庭伝道の働きがあつて、わたしたちには嘆願が聞こえる。自分の国に非常に多くの罪があり、大変な骨折りが必要であるなら、なぜ、それほど外国に対して熱心さを表すのであろうか。わたしは、わたしたちの畑は全世界だと答える。……救い主は弟子たちにエルサレムでその働きを始め、それからユダヤとサマリヤを経て、地の果てにまで伝えるようにと指示された。ほんの少数の人だけがこの教理を受け入れた。しかしその使命者は地の近いところも遠く離れたところもすべての場所を、福音の旗印を掲げて、国から国へと進み行きながら、方々へ、すみやかにそのメッセージを伝えた。しかし準備の働きがあつた。救い主のみ約束は、「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、……わたしの証人となるであらう」であつた。自分自身の意志や願望に従うのではなく、主の勧告を求める者は、主が自分に教えて下さることに対して、怠けた生徒にはならない。(手紙 429, 1893 年)

悲しみか喜びか

「刈り入れの時が過ぎ、夏もはや終わった。しかしわれわれはまだ救われない。」
(エレミヤ 8:20)

わたしたちの教会のメンバーに、時のしるしの成就に注意を払うようにとわたしは勧告する。このしるしは終わりが近いということを非常にはつきり述べている。ああ、自分の魂の救いを気につけないでいる人々がまもなくどれほどたくさん苦しい悲嘆にくれることであろうか。「刈り入れの時が過ぎ、夏もはや終わった。しかしわれわれはまだ救われない」と。

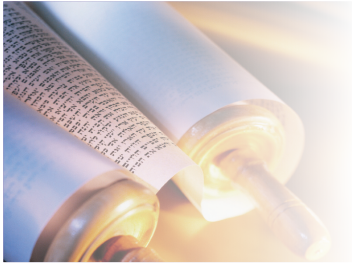
ああ、今は審判が行われている時であり、わたしたちの判決はまだくだっていないということをわたしたちが覚えていると良いのだが。今は目をさまして祈り、すべての放縦、誇り、わがままを捨て去る時である。多くの人が今、今、無駄にするよりもなお悪い用い方をしている貴重な一瞬一瞬は、瞑想と祈りに用いられるべきである。神の戒めを守っていると公言する者の多くは、義務の道ではなく、自分の好む道に従っている。彼らが現在のままであるなら、永遠の命を受けるのにふさわしくない。これらの不注意な、また無関心な人々に対して、あなたがたのむなしい思いや不親切な言葉、また利己的な行動は天の書に記されていると言いたい。ベルシャザルの偶像崇拜のお祭り騒ぎに臨席した天使は、あなたが救い主を辱める時にもあなたのそばに立っているのである。あなたがこのように救い主をふたたび十字架につけ、さらしものにするのを深く悲しんで、彼らは去っていく。……

キリストの戴冠式の日にはしみやしわまたそのたぐいのものをおびた者をキリストはだれもお認めにならない。しかし、忠実な者へは不死の栄光という冠を授けられる。キリストに統治していただくことを望まない者たちは、贖われた者の軍勢、すなわち各々主われらの義というしるしを身に帯びた者の軍勢に囲まれた救い主を見るであろう。彼らはかつていばらの冠をかぶせられた頭に栄光の冠の王冠がかぶせられているのを見るのである。

その日には、贖われた者は、御父と御子の栄光で輝く。天の御使たちは金の堅琴をかなでながら、王と、その勝利の記念品、すなわち小羊の血で洗われ、白くされた人々を迎える。勝利の歌が全天を満たして鳴り響く。キリストは勝利された。主は贖われた者たち、すなわちご自分の苦しみと自己犠牲の偉業が無駄に終らなかった証人たちを引きつれて宮廷に入られる。(ビュー・アブド・ヘラド 1904年11月24日)

研究 19

三重のメッセージ



第三天使のメッセージ

Part 6

サタンの驚くべきわざ (心霊術)

「あなたがたは、だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない。これらのことから、神の怒りは不従順の子らに下るのである」(エペソ 5:6)。

「心霊術は嘘である。それは元々の大嘘に基盤をおいている」(教会への証 1 巻 301)。

「神のみ言葉に反するものは、みな、サタンから出たものであると思って間違いない」(人類のあけぼの上巻 42)

「この危険な時代に、わたしたちは人がわたしたちに真理として伝えるものを何でも受け入れるようであってはならない。神からの教師であると公言する者たちが自分たちには神からのメッセージがあると宣言してわたしたちのところに来るとき、わたしたちがどのようにしてこれが真理であるとわかるか、と注意深く問うてみるのは妥当なことである。……預言者は、「律法と証とに求めよ。もし彼らがこの言葉によって語らないならば、それは彼らのうちに光がないためである」と言っている。

この言葉から、何が律法と証によっているかをわたしたちが知るために、聖書を学ぶ勤勉な生徒となるべきことは、あきらかである。わたしたちは他の行動指針をとっては安全ではない。……

この妄想の時代には、真理に固く立つ人はすべて、かつて聖徒に伝えられた信仰のために戦うようになる。あらゆる種類の誤謬がサタンの驚くべきわざのうちにもたらされ、もし可能であれば、選民をも惑わして、彼らを真理からそらす

うとするのである。……

偽りの夢と偽りの幻がおこる。それらには幾分かの真理があるが、元々の信仰からそらしてしまう。……彼らは自分が聖霊からだ信じ、靈感を受けた言葉よりも信頼できると考える衝動と印象に支配される。彼らはすべての思想と感情はみ霊の感動だと主張し、そして彼らが聖書から論理的に説明されると、自分たちにはそれよりもっと信頼できるものがあると宣言する。しかし彼らは聖霊に導かれていると思っているが、実はサタンによって引き起こされた想像に従っているのである。

わたしは幻や夢の形で伝えられるものをすべて受け入れたくて仕方のないわが親愛なる兄弟たちに述べたい。わなにかけられないように気をつけなさい。世の贖い主からその弟子たちに与えられ、そしてさらに彼らによって世に与えられるべき警告を読みなさい。神のみ言葉は堅固な岩であり、わたしたちは自分たちの足を安全に置くことができる。すべての魂は必ずテストされなければならないし、すべての信仰と教理は、何があっても律法と証によって試されなくてはならない。だれにも欺かれないように注意しなさい。このことに関するキリストの数々の警告はこの時代に必要とされている。なぜなら、妄想と欺瞞がわたしたちの間に入り込み、わたしたちが終わりに近づくにつれて増え広がるからである」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 951, 952)。

「キリスト教会を取り巻くさまざまな危険について神が警告されたことばは、今日われわれも聞かなければならない。弟子たちの時代に、人々は伝統や哲学によって聖書を信じる信仰を破壊させようとしたが、今日は、高等批評、進化論、心靈術、神知学、汎神論など心を楽しませる意見によって、義の敵は魂を禁じられた道へ導こうとしている。多くの人たちにとって、聖書は油のないランプのようなものである。なぜなら、彼らの心は誤解と混乱しか招かないような、推論的信念に向けられているからである。分析し、推測し、組み立て直す「高等批評」の作業が、神の啓示としての聖書についての信仰を破壊している。高等批評は、神のみことばから、人の生活を支配し、高め、靈感を与える力を奪っている。心靈術によって多くの人々は、欲望が最高の律法であり、放縦が自由であり、人は自分にだけ責任があるのだと信じるよう教え込まれている。

キリストに従う者は、使徒がコロサイの信者たちに警告した「巧みな言葉」に出会うであろう。また、心靈主義的な聖書解釈に出会うであろう。しかし、それ

らを受け入れてはならない。キリストに従う者の声は、聖書の永遠の真理を明確に語らなければならない。目をキリストに向け、キリストの教えに一致しない考えをことごとく捨てて、定められている道を着実に進んで行かなければならない。神の真理が彼の黙想、瞑想の主題でなければならない。聖書を、直接彼に語りかける神の声と思わなければならない。こうして彼は、神の知恵を見いだすのである」(患難から栄光へ下巻 167, 168)。

人間の推論

「わたしがこう言うのは、あなたがたが、だれにも巧みな言葉で迷わされることのないためである。……あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの霊力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない」(コロサイ 2:4, 8)。

「テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして、俗悪なむだ話と、偽りの「知識」による反対論とを避けなさい」(テモテ第一 6:20)。

「サタンは、聖霊の働きにおいてわずかな経験しかなく、非常に限定された霊的知識で満足しきっている人々の霊的な理解力を曇らせるためにたくみに準備してきた。惑わす者の努力により、神のみ言葉を信じる信頼を蝕み、真理を誤謬から見分けることを不可能にされてきた。すばらしく耳あたりがよく、空想力に富み、科学的な問題が紹介され、それらが軽率な人々の注意を強く求めている。そして信徒たちが自分で警戒していない限り、敵は光の天使に扮装して、彼らを偽りの道へと導き入れるのである。……」(伝道 359)

「神と神のみ言葉についての知識がある者には、聖書の神性を信じる確固とした信仰がある。彼は聖書を人間の考えた科学によって試したりはしない。彼はこれらの考えを無謬の標準に照らしてテストするのである。彼は神のみ言葉が真理であること、そして真理は決して矛盾しないことを知っている。またいわゆる科学の教えにおいて、神の啓示の真理に矛盾するものは何でも、人間の推論にすぎないことを知っているのである」(教会への証 8 巻 325)

「キリストからすべての真理が放射している。キリストから離れるとき、科学は人を誤らせ、哲学は愚かである。救い主から離れる人々は、狡猾な敵に由来した理論を推進する。キリストの生涯は、あらゆる偽りの科学、あらゆる誤まった理論、

あらゆる惑わしの方法と顕著な対照をなしている」(この日を神と共に 324)。

キリスト教という衣の下で

「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」(ペテロ第一 5:8)。

「わたしたちは地上歴史の終わりに近づいており、サタンはかつてなかったほど働いている。彼はクリスチャン世界の司令官として行動しようと躍起になっている。すばらしい強烈さをもって偽りの不思議を働いている。サタンは、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っていると表されている。彼は全世界を自分の連合に引き入れようと願っている。自分のおぞましさをキリスト教という衣の下に隠して、彼はクリスチャンの特性を装い、キリストご自身であると主張する」(原稿 8 巻 346)。

「わたしたちには外からよりも内からのほうに、はるかに多く恐れるべきものがある。力と成功への妨害は、世からよりも教会自体からのほうがはるかに大きい。……不信にふけること、疑いを表現すること、闇を心に抱くことが、悪天使たちの同席を奨励し、サタンの考案が果たされるための道を開くのである」(レクテッド・メッセージ 1 巻 122)。

偽りの霊は聖書に矛盾する

「愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである」(ヨハネ第一 4:1)。

「わたしは、聖徒たちが、現代の真理を徹底的に理解しなければならないことを見た。彼らは、それを、聖書によって支持しなければならない。彼らは、死の状態を理解しなければならない。悪霊たちは、愛する友人や親族だと言って彼らに現れて、安息日が変更されたことやその他の非聖書の教理をも唱える」(初代文集 175)。

「使徒たちの姿を装った偽りの霊は、使徒たちが地上にいる時聖霊のさしずのまに書いたものと矛盾することを教える。彼らは聖書が神から出たものである

ことを否定する」(各時代の犬争闘下巻 311, 312)。

「サタンは、靈魂不滅と日曜日の神聖化という二つの重大な誤りを通して、人々を彼の欺瞞のもとに引き入れる。前者は心靈術の基礎を置き、後者はローマとの親交のきずなを作り出す」(各時代の犬争闘下巻 350)。

偽りのリバイバル

「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」(マタイ 7:21)。

「わたしは、神が、名目的再臨信徒たちと、墮落した教会の中に、心の正しい人々を持つておられるのを見た。そして、牧師や信者たちが、災害が、くだされる前に、これらの教会から呼び出されて、喜んで真理を受け入れることをわたしは見た。サタンは、この事を知っている。第三天使の大いなる叫びがあがる前に、サタンは、これらの宗教団体に、興奮を起こさせ、真理を拒んだ人々に、神が彼らと共におられると思わせるのである」(初代文集 424, 425)。

「彼は、自分の欺瞞の力のもとに置くことのできる諸教会において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。大いなる宗教的関心と思われるものが現われる……。そこには感情の興奮と、真理と虚偽の混合が見られ、それは人を欺くのに好適なのである。しかし、だれも欺かれる必要はない。神の言葉に照らしてみるならば、これらの運動の本質を見定めることは、むずかしいことではない。人々が聖書の証言をおろそかにし、克己と世俗の放棄とを要求する明快で人の心を試す真理から顔をそむけるならば、神の祝福を受けることができないのは確かである」(各時代の犬争闘下巻 190, 191)。

音楽を通してさえも

「主はわたしに恩恵期間の終了の直前に何が起こるかを示された。見苦しいものがことごとく実演される。叫び、ドラム、音楽、ダンスがおこる。理性的な存在の感覚が、あまりにも混乱して正しい判断ができるものとして信頼できなくなる。……

「狂気じみた騒音が五感に衝撃を与え、もし正しく指揮されていたならば祝福となっていたはずのものを悪用する。サタンの使たちの力が騒動と騒音をまぜて謝肉祭をし、これが聖霊の働きだと言われるのである。……これらの過去に起こったことは将来にも起こる。サタンは指揮される方法によって音楽をわなにする」(レクテッド・メッセージ 2 巻 36, 38)。

「本当に聖霊の深い感動を思いから取り去ってしまう奇妙な働きが入り込むことのないようにしよう。神の働きはいつも落ち着きと尊厳が特徴である」(レクテッド・メッセージ 2 巻 42)。

悪天使が人間として現れる

「不法の者が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けられなかった報いである」(テサロニケ第二 2:9, 10)。

「サタンは人間をそそのかしてその神に対する忠誠からそらすためにあらゆる機会を用いる。サタンと彼と共に墮落した使たちは、地上で人間として現われ、欺こうとするのである」(原稿 8 巻 399)。

「人間のすがたをした悪天使たちが、真理を知っている人々と語るであろう。彼らは神の使命者たちの言葉を誤解させ、曲解させる。……セブンスデー・アドベンチストはエペソ書 6 章に与えられている警告を忘れてしまったのであろうか。わたしたちは闇の軍に対する戦いに従事している。わたしたちが自分の指導者なるお方に近く従っていない限り、サタンがわたしたちに対して勝利を得るのである」(レクテッド・メッセージ 3 巻 411)。

「悪天使たちにとって、聖徒であれ罪人であれ死んだ者を表し、これらの表示を人間の目に見せることは難しいことではない。これらの表れは、時の終わりに近づくにつれ、ますます頻繁に起こり、ますます衝撃的な現象が現われるようになる」(伝道 604)。

「これはサタンの最も成功を収めている魅惑的な妄想—自分の愛する者たちを墓の中に横たえた人々の同情を勝ち得るためにもくろまれたもの—である。悪天使たちはこれらの愛する者たちのすがたをとってやってきて、彼らの生活に関す

る出来事を述べる。そして彼らが生きているところに取った行動を取る。こうして、彼らは人々が自分の死んだ友人は天使であって、彼らの上を飛び回り、彼らと交信しているのだと信じるように導く。これらの死んだ友人を装っている悪天使たちは、ある種の偶像のようにみなされ、そして多くの人々は彼らの言葉を神のみ言葉よりも重視するのである」(サインズ・オブ・タイムズ 1889 年 8 月 26 日)

「サタンは人々の前に、彼らの死んだ友人たちの姿をあらわす力を持っている。その偽者は完全である。見なれた表情や言葉や声の調子などが、信じられないほどの正確さをもって再現される。……多くの者は、愛する肉親や友人の姿をしてもっとも危険な異端の説を唱える悪霊たちに直面するであろう。これらの来訪者たちは、われわれの最も感じやすい同情に訴え、自分の主張を支持するために奇跡を行なう」(各時代の争闘下巻 305, 315)。

サタンはキリストを装う

「しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから」(コリント第二 11:14)。

「敵は自分の奇跡を行う力によって全世界を欺こうと準備している。彼は光の天使を装うために、すなわちイエス・キリストを装うために擬装するのである」(セクレット・メッセージ 2 巻 96 (同 394, 牧師への証 411))。

「欺瞞の一大ドラマの最後を飾る一幕として、サタンはキリストを装うであろう。教会は、救い主の来臨を教会の望みの完成として期待していると長い間公言してきた。今や大欺瞞者は、キリストがおいでになったように見せかける。地上のあちらこちらで、サタンは、黙示録の中でヨハネが述べている神のみ子についての描写に似た、まばゆく輝く威厳ある者として人々の中に現われる(黙示録 1:13 ～ 15 参照)。……」(各時代の争闘下巻 398)。

「サタンは自分が敗訴しそうなことを悟る。彼は全世界の政権を握ることはできない。彼は欺瞞によって忠実な者たちに勝利しようと最後の決死の努力をする。彼はキリストを装うことによってこれをなすのである。彼はヨハネの幻の中で正確に描写されたとおりの王衣を身にまとう。彼にはこうする力がある。彼は自分に従う欺かれた者たち、すなわち真理の愛を受け入れずに、不義(律法の不法)のうちに喜んだクリスチャン世界に、キリストが再臨なさったかのように現われる。

彼は自分がキリストだと宣言し、キリストだと信じられる。美しく堂々とした者が威厳をまとい、そしてやさしい声でこちよい言葉を語り、死すべき人間がかつて見た何ものにも勝る栄光をもっている。そのとき彼に従う欺かれ惑わされた者たちが、勝利の叫びを上げるのである、「キリストが再臨なされた！キリストが来られた！このお方は地上におられたときになされたように、われわれを祝福なさるためにみ手を上げられた」と。……

「聖徒たちは驚いて見る。彼らも欺かれるのであろうか。彼らはサタンを礼拝するであろうか。神の御使たちが彼らの周りにいる。はっきりとした確固たる音楽のようなみ声が聞こえる、「上を見なさい」。

祈る人々の前には、一つの目的—自分たちの魂の最終的で永遠の救い—があった。この目的は絶えず彼らの前にあった。その不死の命は最後まで耐え忍ぶ者たちに約束されていた。ああ、彼らの願いは何と真剣で熱烈であったことであろう。さばぎと永遠とを見ていた。彼らの目は、信仰によって白い衣を着た者たちがその前に立っている燃えるみ座にしっかりと留まっていた。これが彼らを抑止して罪にふけらせなかった。……

さらにもう一つの努力がなされ、そのときサタンの最後の発明が実行された。彼はキリストがわれらを救出するために、キリストよ来たりませとの絶え間ない叫びを聞く。これはキリストを装い、彼らに自分たちの祈りが聞かれたと思わせるための最後の戦略である」（原稿 16 巻、1884 年）。

「サタンはキリストの来臨のありさまをまねることは許されない」（各時代の大争闘下巻 399）。

奇跡が行われる

「病人がわたしたちの前で癒される。奇跡がわたしたちの目前で行われる。わたしたちはサタンの偽りの不思議がもっと完全に展示されるときにわたしたちを待ち受けている試練のために準備ができているであろうか」（教会への証 1 巻 302）。

「わたしたちは欺かれる必要はない。不思議な光景、サタンが密接に関係している光景がまもなく展開される。神のみ言葉はサタンが奇跡を働くと言言している。彼は人々を病気にしておいて、それから突然自分の悪魔的な力を彼らから

取り除く。彼らはそのとき癒されたと考える。これらの一見、癒しと見える働きはセブンスデー・アドベンチストたちにテストとなるであろう」(『エレクトド・メッセージ』2巻53)。

「ほとんどすべての種類の心霊術の主唱者たちは、いやしの力を持っていると主張する。彼らは、この能力を電気、磁気の力、いわゆる「共感治療」または、人間の心の中にある潜在力によるものであると言っている。このキリスト教時代にあつてさえ、生きた神の力と資格をもった医師の技術に信頼せずに、こうした治療者のところへ行く人が多くある。子供の病床で見守っている母親は、「もうわたしにはこれ以上何もできない。わたしの子供を治して下さる力を持った医師はないものだろうか」と叫ぶ。彼女は、千里眼的磁気治療者が驚くべきいやしを行っていると聞いて、彼女の愛する子供を彼にゆだねるのであるが、これは、正しく彼女のかたわらに立っているも同然のサタンにゆだねることである。多くの場合、子供の将来はサタンの力に支配されて、それからぬけ出することは、ほとんど不可能になるのである」(国と指導者上巻178, 179)。

天からの火

「また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえした」(黙示録13:13)。

「サタンはもし可能ならば、選民をも惑わそうとしてやってくる。彼は自分がキリストであると主張し、そして入ってきて、偉大な医療伝道者であるかのように装う。彼は自分が神であることを証明するために、人々の前で、天から火を降らせることさえするのである」(医療伝道87, 88)。

「み言葉の中で敵は信仰から離れた自分の代理人たちを通して働くこと、そして彼らが奇跡と見えることを行うこと、人々の前で天から火を降らせることさえすることが述べられている」(『エレクトド・メッセージ』2巻54(各時代の争闘下巻307参照))。

「神の民は奇跡を行うことに自分たちの安全を見出すのではない。なぜなら、サタンは偽の奇跡を働くようになるからである」(教会への証9巻16)。

「聖書は奇跡的な表れに取って代わられることはない。真理が研究されなければならない。それは隠された宝のように探られなければならない。み言葉を

さしおいて、それに取って代わるために、すばらしい光が与えられることはない。み言葉にしっかりと固着し、心に植えつけられたみ言葉を受け入れなさい。それは人を救いに賢い者とする」(セレクト・メッセージ 2 巻 48)。

「まもなく最後の大きいなる欺瞞がわれわれの前に展開されようとしている。反キリストがわれわれの目の前で驚くべき業を行なうのである。偽物があまりにも本物によく似ているために、聖書による以外には両者の見分けは不可能である。すべての言説や奇跡は、聖書のあかしによって吟味されなければならない」(各時代の大争闘下巻 358, 359)。

しかし、わたしたちが完全ではないので、もっと神さまの純真（じゅんしん）と純潔を理解するために、反逆した世から分離する必要があります。

神さまの聖所は天にあります。しかし、感謝すること、地上にも神さまの忠実な民が神さまとお会いするために取りおかれた場所があります。今日、わたしたちの創造主が、わたしたちの心に「静まって、わたしこそ神であることを知れ」と仰せになることができる静かな聖所があります（詩篇 46:10）。

旧約時代きゅうやくじだい:イエス・キリストがお生まれになる前の時代の聖所の奉仕（ほうし）は、わたしたちがどのように敬神（けいしん）と畏敬（いけい）をもって、わたしたちの造り主に近づくべきかを教えています。わたしたちの罪と欠陥（けっかん）が主を見ることができないように遮断（しゃだん）してしまいました。しかし、わたしたちが生きているところがどこであっても、このお方はなおこの地上にあるご自分の家に来るようにとわたしたちを招いてくださっています。そこは聖なる場所です。

「神に対する真の崇敬（すうけい）の念は、神の無限な偉大（いだい）を感じ、神の臨在（りんざい）を意識することによって喚起（かんき）される。どの子供も目に見えない神についてのこの観念（かんねん）を心中に深く刻みつけられなければならない。祈りや礼拝の時間と場所は、神がそこにご臨在になるゆえに、神聖なものとして考えるべきであることを子供に教えなければならない。」（教育 286）

しかし、もう一つ大事なポイントがあります。神さまはまた、あなたの心の中に住むと約束してくださったことも覚えていてください。このお方は、「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖ととなえられる者がこう言われる、わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕ける者の心をいかす」と言われます（イザヤ 57:15）。

もしあなたが心の中にイエスさまをお迎えするなら、このお方は喜んでそこにも住んでくださいます！そしてこのお方はあなたよりも大きいお方です。このお方の力強い愛はあなたから他の人々へ、笑顔や、親切な言葉や、良い行いのうちにあふれ出るようになります。なんと美しく、完璧なご計画でしょう！

切り干し大根と油揚げのサラダ

〔材料〕

切り干し大根	適量
油揚げ	2 枚
パプリカ	1 個
レッドオニオン	1 / 2 個

ドレッシング材料：

にんにく（すりおろしたもの）	1 片
粗糖	小さじ 1
すりごま	大さじ 1
しょう油	大さじ 1
ごま油	適量

〔作り方〕

- ①切り干し大根を洗って、水切りする。
- ②①と油揚げをからいりする
- ③レッドオニオンをスライスして、水にさらして、水を切る
- ④パプリカを千切りにする
- ⑤②、③、④を混ぜる
- ⑥ドレッシング材料を混ぜる
- ⑦⑤と⑥を混ぜる

味はお好みで調節して下さい。

和風のさっぱりとおいしいサラダです。

お好みでワカメを入れても。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。





聖所（せいじょ：Sanctuary：サンクチュアリ）とは何でしょうか？いろいろな種類の聖所があります。たとえば、鳥の聖所（Bird Sanctuary）、つまり鳥類保護区（ちょうるいほごく）と言え、人が楽しめるように、鳥が安全に守られている場所のことです。鳥はそこでは安全です。猟師（りょうし）も猛獣（もうじゅう）もなく、何も傷つけるものはいません。それは避難場所（ひなんばしょ）あるいは安全の場所です。

「聖所:Sanctuary:サンクチュアリ」という言葉は、ラテン語で「聖なる」という意味の「sanctus」という言葉から来ています。それは、何かが「取りおかれている」ことを説明しています。

たとえば、りんごか、桃（もも）の大きな箱があると考えてみましょう。気がついたことがあるかと思いますが、もし箱の中の桃の一つにカビが生えたと、たちまちその桃にくっついている他の桃もすぐにだめになっていきます。わるくなった桃をとりのぞかない限り、箱全体がだめになってしまうのに時間はかかりません！

これこそ、わたしたちの創造主（そうぞうぬし）が、ご自分のいにしへの民に、腐敗（ふはい）することなく純潔（じゅんけつ）でいるために、分離（ぶんり）していなさいとお教えになった理由です。

神さまは純潔で聖なるお方です。反逆した世とはちがいます。ですから、このお方はご自分のために「聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである」と言われました（出エジプト記 25:8）。神さまはわたしたちに近づくことによってだめになることを心配なさる必要はありません。